

子どもにワクチン接種させないで

5～11歳の子どもたちへのワクチン接種が始まりました。しかし、子どもたちに接種のメリットはありません。大人のエゴで子どもたちを苦しめることはやめましょう。



2回接種でもクラスター発生

この2ヵ月間は最悪でした。私が嘱託医を務める施設で新型コロナのクラスターが発生したのです。

施設側から「2回目の接種から間もなく6ヵ月になるから、3回目を接種したい」との要望がありました。高齢者もいるので気が進みませんでした。1～2週間以内の接種を目指して準備を始めました。

ところが、接種前の2月中旬に感染者が1人出ました。すると数日のうちに感染が一気に広がり、スタッフ20人中19人が感染。障害を抱えた人たちもほぼ全員がPCR陽性となり、2人は酸素飽和度が急に低下して入院しました。

保健所の指示で、全員が隔離となりました。全員がファイザー社のワクチンを2回接種していたので、ワクチンは全く効果のないことが証明されました。少しは効果があるのではないかという甘い思い込みは見事に否定されました。

発病後の重症度は、心臓、肺、腸の病気、糖尿病、高血圧などの基礎疾患の有無とは関係ありませんでした。

近くの保育所では、スタッフで感染しなかったのは5人だけというクラスターも発

生し、ほぼ全員がホテル療養となりました。

毎日の診療も大変でした。

2月以降は、熱と喉の痛み、腹痛で受診する子どもが、10歳前後の小学生を中心に下は幼稚園児から上は中学生まで急速に増え、唾液の抗原検査で次々と陽性が判明しました。

コロナの発生がわかると、感染症法の規定に従い、直ちに保健所に発生届をファックスしなければなりません。時々、保健所から確認の電話が来ることもあります。

近所の小児科医院で発生届が遅れたら、保健所から早く出せという連絡がきたと聞きました。とにかく、診断したらすぐに届けなければなりません。そのため事務的にも忙しくなります。

ホテル療養は「放置」

子どもたちは、幸い重症化はしないので、漢方薬の麻黄湯とアセトアミノフェンを処方すれば、数日以内に回復します。

麻黄湯がどうしても飲めない子には、アセトアミノフェンだけ処方します。

これに対し、大人の感染者は症状が全く違いました。

PCR陽性でも症状がまるっきり出ない人もいますが、高熱、喉の痛み・発赤が出て、

極端に食欲がなくなり、「食べられる気がしない」と訴える人もいました。

解熱後に出てくる咳は長い間止まりません。療養終了後も、喉が痛くて食べ物が呑み込めないという症状もあります。

ところが、こういう症状にほとんど治療が行われず、感染がわかると、ホテルでの療養だけとなります。1日2回の看護の電話による状態確認だけですから、安心安全な状況では全くありません。

これでは療養でなく放置です。それも、タダの放置ではなく、食事代として1食1,500円も予算がついているのです。それなのに、貧しい食事しか提供されず、栄養失調で症状を悪くさせています。

さらに問題なのは、療養を終了した後も医療機関の窓口で門前払いされ、喉の痛み、咳、倦怠感、味覚障害などの症状があっても、適切な治療が受けられないことです。

「効果あり」に説得力なし

こういう状況ですので、コロナワクチンに効果があったと実感できる人はほとんどいないでしょう。

2回接種してから半年もたっていないのに、新型コロナに感染する、死亡する高齢者もいるというのでは、「効果あり」に説得力はありません。専門家は「感染を予防するのではなく、重症化を予防する」と説明しますが、死亡者の増加という事実の前ではいかにもそらぞらしい。

それなのにクラスターが発生した施設から、感染者の健康状態がまだ回復していないのに「早く3回目の接種をしたい」と連絡してきたのです。「ワクチンでコロナ感染症の

後遺症が軽快する」などと報道されているせいかもしれません。

しかし、感染後の免疫が低下している状態では、ワクチンの効果はありません。

子どもに接種のメリットはない

5～11歳のワクチン接種率は3月15日現在1%だそうです。日本のお父さん、お母さんは賢明だと思います。

効果と損失をよく考えて判断すれば、健康な子どもたちにワクチン接種のメリットはなく、接種する意義もありません。

マスコミは「基礎疾患ある子にはワクチン接種を」と呼びかけていますが、基礎疾患がなんであるかは全く報道しません。

ワクチンで死んだ2人の子どもは、重い基礎疾患を抱えていた子です。

子どもの新型コロナ感染症は、感染しても無症状か、症状があっても軽く、ワクチンの副作用を考慮すると、ワクチン接種は勧められません。長期的な副作用については「不明」のままです。

「ほかの人に感染させないために接種したい」という子どもの言葉を聞いたときに、そんなことを言わせている周囲の大人に怒りを覚えます。

高齢者が不要不急の外出をやめ、肥満を改善し、血糖値を下げれば、死亡する人は確実に減ります。

大人は自分を守るために子どもに苦痛を押し付けてはいけません。

「弱者」とは子どもたちのことです。大人は子どもの将来を守る責任があります。

保護者の方々には、賢明な対応をお願いします。
寺澤政彦(医師)

読者から「自宅療養体験記」

新型コロナに感染した読者のSさんから体験記が寄せられました。漢方薬の効果的な使用で、症状がかなり軽くて済んだようです。発症時の過ごし方も詳しく書かれているので、参考になります。



帰宅すると発熱

日曜日、朝から出かけて帰宅すると寒くて震えが止まりません。

マスクをしないで同じ部屋にいた友人が4日前に発熱したことを思い出し、漢方薬の麻黄湯まおうとうを飲んで、念のため家族と部屋を別にして寝ました。

首からはほてって熱いのに、体は湯たんぽを使っても一晩中寒く、熱を測ると37.9℃に上がっていました。

翌朝、県の受診相談センターに電話すると、「症状が軽いので、様子を見たらどうか？心配なら近くの発熱外来を受診してみるのもいい」と病院の検索方法を教えられました。

午後になるとさらに熱が上がってきたので、近くの病院を探して受診。診察後に抗原検査とPCR検査を受けました。

症状があったので検査は無料でしたが、診察と処方薬（解熱剤、トローチ、喉の痛み止めの「トラネキサム酸錠」）は保険診療で有料でした。

帰宅すると、病院からすぐに連絡があり、抗原検査が陽性だったと告げられました。十分注意していたつもりだったのに、新型コロナに感染してしまいました。

インフルエンザより楽だった

解熱剤を2回使って、3日目には微熱程度に。5日目から平熱に戻りました。

後から喉がすごく痛くなりましたが、数年前にかかったインフルエンザのほうがもっと辛かった覚えがあります。そのときよりは症状はかなり軽いと感じました。

最初の2日間は、解熱剤とトローチを使いましたが、3日目から補中益気湯ほちゅうえっきとうと板藍根ばんらんこんを毎日飲みました。喉の痛み止めは1回飲んだだけで、4日目からは銀翹散ぎんぎょうさんを購入して飲み、7日目に咳が出てきてからは「ダスモックだすもく」（清肺湯せいはいとう）も飲みました。



母は持病のためワクチンを受けられず、私も夫もワクチンは接種していません。

私が発症してから、家族とはトイレ、部屋を完全に別にして、部屋を出るときは手袋をして、なるべく周りをさわらないように注意を払い、自分のゴミは1日ごとにビニール袋に入れて密封。私が使った食器は家族に煮沸消毒してもらい、箸やスプーンは使い捨てのものを使用しました。

マスクは1日中着けて、換気のため日中は窓を開けっ放しに。幸い毎日暖かかった

のでベランダで日光浴していました。

家族にも毎日、板藍根、補中益気湯を飲んでもらいました。後日、PCR検査を受けてもらおうと陰性。私に症状が出る前は普通に接していたので、持病を持つ高齢の母に感染しなかったことに安心しました。

保健所からスマホに指示

病院から抗原検査が陽性と連絡が入った翌朝、保健所からスマホにショートメッセージが届き、患者登録するためのURLが貼られていました。

保健所の説明によると、療養期間は発症日を0日として10日目まで。解除の連絡はしないとありました。配食サービス申し込みの案内も送られてきました。厚生労働省のURLも貼られていて、読んでおくよう指示されました。

また、接触確認アプリ（COCOA）に登録するよう要請され、登録するまで何度もしつこくメールがきたので、しかたなく登録しました。

私はごく軽く、「面倒」と思うだけでしたが、重症者だったら、毎日の報告メールなど、かなり辛いだろうと心配になりました。

濃厚接触者に対しての指示は何もなく、自己判断で、発症前の2日間に会って話した10人ほどに連絡して検査してもらおうと、全員陰性。お互いマスク越しでの会話だったので、マスクは効果があったのかもしれません。

保健所の指示に従い12日目に職場復帰。

体調も今まで通りで問題ありません。ニオイが少々鈍い程度ですが、徐々に回復しています。

症状の推移

■1日目 夜中に発熱。

■2日目 朝は37.9℃。頭が痛い。麻黄湯を飲んで寝ていると、昼過ぎから急に熱が高くなって、全身が筋肉痛のような痛みに襲われる。保健所で教えられた検索方法で病院を探し、予約を入れて、夕方4時ごろ、1人で出かける。

抗原検査が陽性で新型コロナと判明。

■3日目 起きたとき吐き気に襲われるが、すぐ治まる。軽い朝食後、解熱剤（2回目）を服用すると汗が出て、かなり楽になる。

■4日目 解熱剤を飲まなくても熱は微熱程度。鼻水が出る。しょっぱいものは痛くないのに、トマト、ココアが喉に沁みる。PCR検査結果がようやく届き、陽性。

■5日目 平熱。のどの腫れと咳が少し出ているくらい。鼻が詰まって、ニオイがわからなくなってきたので、とうきしやくやくさん当帰芍薬散を飲み始める。

■6日目 元気なので部屋に閉じこもっているのが苦痛になってくる。

■7日目 咳が出るようになった。相変わらずニオイがわからない。

■8日目 咳に加え痰がでるようになった。1週間ぶりに入浴。すっきり気分いい。

■9日目 咳は出ているものの元気なので、シーツや毛布など溜まった汚れ物を一気に洗濯。手袋をつけ、掃除機に直接触らないように注意して部屋も掃除する。

■10日目、11日目

ニオイが少しわかるようになってきたが、当帰芍薬散は続ける。

■12日目 職場復帰。